

令和3年度 みんなで支える森林づくり木曽地域会議 (第1回) 実施概要

1 日時 令和3年度8月5日(木) 13時30分～16時
場所 現地及び木曽合同庁舎講堂

2 出席者

【委員】

大屋誠委員、坂家重吉委員(座長)、田中淳司委員、田中憲江委員、脇坂千恵子委員、清水紘一委員、長瀬恵敏委員、古畑正美委員、半場純子委員

【木曽地域振興局】

神事局長、中宿林務課長、小林課長補佐兼林務係長、松尾課長補佐兼普及林産係長、山内森林保護専門員、山岸主任、稲村主任、渡澤技師

【報道】

中日新聞、市民タイムス

【傍聴】

なし

3 実施内容

(1) 開会

(2) 神事木曽地域振興局長あいさつ

(3) 現地視察調査

木曽町日義宮の越地区【視察資料】

「令和2年度里山整備利用地域活動推進事業」の事業地である木曽町日義南宮神社周辺の整備状況を視察しました。

本事業は、木曽町日義宮の越地区の里山と地域の人々との関係を再構築し、伝統文化の継承を含めた里山の利活用と整備を推進することを目的に設立された協議会が、里山整備利用地域の認定を受け、森林づくり県民税を活用して活動を行っているものです。

当日は、日義小学校と連携して南宮神社周辺の森林でのコミュニティースクール活動(環境教育)等の事業について視察を行いました。

協議会の巾着から説明をしていただきましたが、委員からは地域のための取組について、高く評価されていました。

(4) 会議事項

1) 令和2年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実績について【資料1、2】

2) 令和3年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実施内容について【資料3、4】

事務局から「令和2年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実績について」資料1及び2、「令和3年度森林づくり県民税活用事業 木曽地域の実施内容について」資料3及び4により説明し、ご質問やご意見を伺いました。

【委員の皆さまからの主な意見等】

○オリンピック会場における長野県産材の活用状況についての質問

→ 国立競技場ほか各競技会場、選手村での県産材の活用状況について説明。

(現地視察の様子)



○「木工体験活動支援事業」に携わった感想

小学生が、山の状況を見るところから始まり、そこから出た木材を製材するところを見学してもらい、その製材されたもので机とイスを製作してもらったが、子どもたちが夢中になって机やイスを製作する姿は、木を扱うものとしてすごうれしかった。また、子どもたちには、森林づくりを進めるための制度や仕組みを知ってもらいたいし、ゆくゆくは、地元の木を使ってもらいたい。

(会議の様子)



○里山整備の意見

昔に比べて、里山の整備をしなくなっている。人家近くまでクマが出没するのも里山整備ができていないため、被害が発生しないような取り組みを進めてほしい。

○熱海市の土砂災害（盛土）に関連した質問

資料を見ると、森林税を活用した森林づくり等の目的は、土砂災害の防止や洪水の防止となっている。最近では、熱海市で盛土による災害が発生しているが、木曾地域では、盛土の災害の危険性について点検等を行っているのか。

→ 現在、建設事務所と地域振興局（農地整備課・林務課）で点検を行っている最中であることを説明。

○木曾地域で進める森林経営管理制度の取組についての質問

昨年度の会議で、木曾広域連合の中に森林整備推進室を設置して、森林経営管理制度に取組んでいくことの説明があったが、取組の現状について教えてほしい。

→ 意向調査、集積計画まで進んでいる団地数、面積について説明。

○松くい虫の被害の状況についての質問

松くい虫の被害が郡内で広がっているのか聞きたい。

→ 今年度に入り、上松町、木曾町で確認されている状況を説明。

○森林税の延長等についての質問

3期森林税もあとわずかとなるが、次期森林税の延長はあるのか。

また、森林環境譲与税との関係はどうなるのか。

→ 森林税の今後の取扱いについては、これから、県民会議、税制研究会といった全県レベルでの会議で議論されていくことを説明。

また、森林環境譲与税は森林経営管理制度の財源であり、事業として重複するものではないことを説明。

○ウッドショックについての質問

最近話題となっている、ウッドショックについて、業界の皆さんが木材の調達に苦労されている様子をよく耳にするが、状況について教えてほしい。

→ アメリカ、中国等海外での需要が伸びていることにより輸入材が入ってこない等の状況について説明。

○後継者問題等への意見

長野県の大工さんは、10年前は2万人くらいいたが、今は9千人くらいだと聞いている。しかもその半数は60歳以上ということで今後が心配な状況である。

また、最近の若い人は、自分の山を手入れしようという考えがないように見受けられる。今後の農林業の見通しも厳しいのではないか。

いま、子どもたちと一緒に机を作ったり、そのほかにも色々な活動やっているが、その

際には、子どもたちに、「将来、地元を守っていくのはあなたたちですよ。」「誰も守ってくれませんよ。」と言うようにしている。

Co2の問題、地球温暖化にしても、森林を守っていくことが Co2 削減を通じて地球温暖化への対策につながっていくと思う。